

博物館は、アントニオ・フォスキーニとガエターノ・ジェンタによって実現されたセッテチェンテスコ・オスペダーレ・デッリ・インフェルミ(1771年/1784年) - 18世紀に存在した重症者のための病院 - の堂々とした新古典主義建築の空間にあります。

この建物は、コマッキオ旧市街で最も重要な歴史的建築物の一つです。

原始時代を示す最初の証拠から中世いたるこの領土由来の考古学的文化財を展示しています。

復興作業と指導機構の助力により、およそ2,000点の出土品の展示をする博物館は、何世紀にも渡るヨーロッパ大陸と地中海世界の文明を結ぶ貿易の重要な分岐点であった多くの水路と陸路をもったポー川の古代河口の物語を語ります。

特に注目すべきセクションでは、集落に由来する出土品や墓の高価な調度品をもつエトルリアの町スピナ、ローマ世界、商業の中心地及び司教座として中世初期に誕生したコマッキオを紹介しています。

コマッキオで発掘されたローマ船の貴重な積荷にも、博物館に移されました。

博物館は、テーマと年代順にセクションが分かれています。

領土変遷のセクションでは、氷河作用と海洋浸食の交互サイクル、凍土帯、森林、潟、人間の集落までの非常に異なる環境を通して、ポー平野の形成から現在にいたる数千年以上のデルタ地帯の環境の変化を研究しています。

青銅最終時代と鉄器初期時代(スピナ以前)のセクションでは、アドリアとスピナ時代以前に起こったこの時代に、地中海とヨーロッパ大陸間の貿易でよく知られた中心地フラッテジーナと同時代の人間の住居形態を浮き彫りにしながら地域で最古の考古学的発見を展示しています。古代エーリダノス川にパエトン墜落や琥珀を追ったギリシャ神話は、この時代にさかのぼります。

アルカイックと古典時代(スピナ)のセクションでは、東地中海に向けた貿易目的のエトルスカの町スピナ、港とエトルリア前哨基地の物語に焦点を当てています。更にエトルリア、ヴェネト、ケルトの住人を含むアテネとギリシャ文明との関係と川上の「薄い」潟の町の構造について研究されています。

ローマ時代のセクションでは、アドリア海帝国艦隊の本拠ラヴェンナの勢力範囲を含むデルタ地帯を紹介しています。この地帯は、農業・工業生産地および魚の養殖・塩の生産地、ローマから北イタリア・アドリア海からバルカン半島間を水と陸を經由して接続する重要な中心地でした。

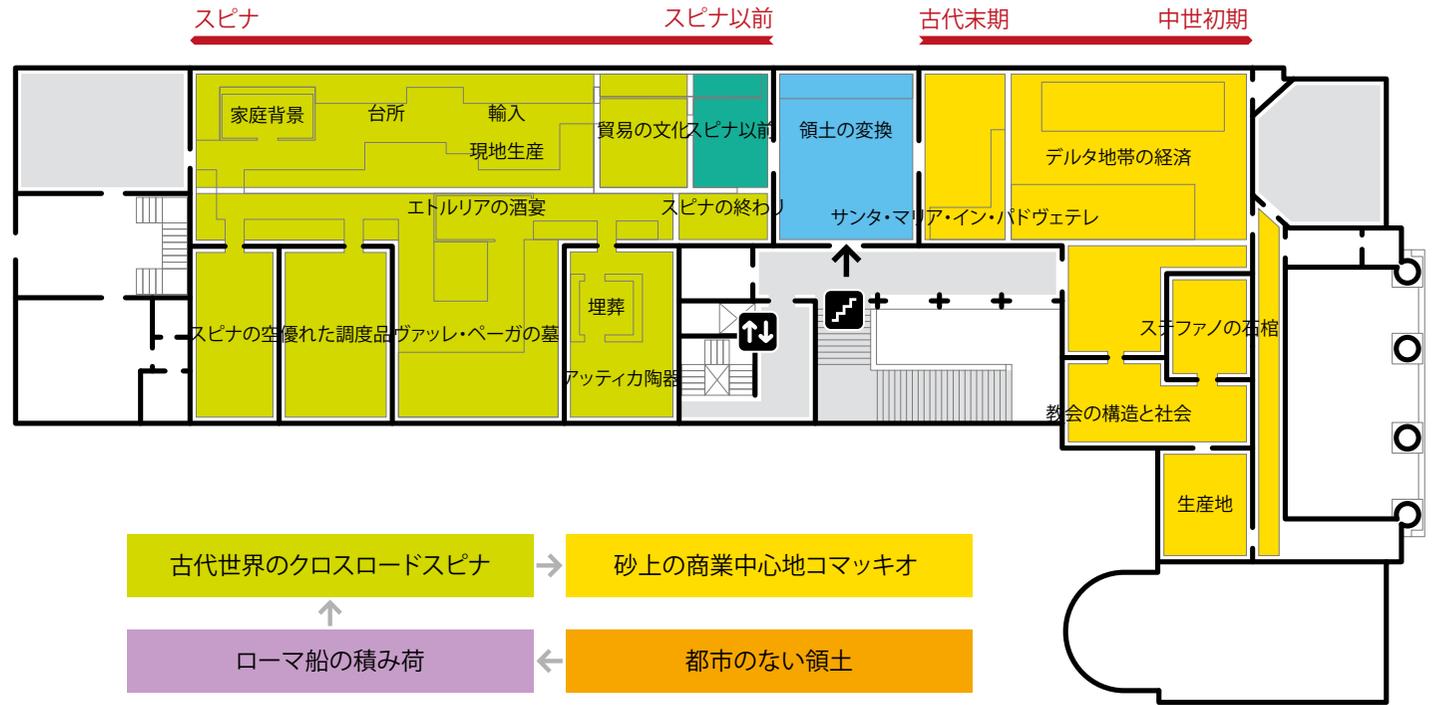
デルタ地帯は、1981年にコマッキオ(ヴァッレ・ポンティ)でアウグストゥス時代とローマの世界化の証を積み込んだ**古代ローマ船**の異例の発見によって、その商才を証明しています。

中世初期のセクションでは、ローマ都市が崩壊し、時には消滅した時代に、北アドリア海岸沿いの集落の連なりは、ゴート人、ビザンティウム人やランゴバルト人との紛争地域で、川と潟(コマッキオとヴェネツィアのような)によって保護された地域がほぼゼロから生まれた方法を説明しています。

コマッキオは、地中海の貿易ルートがまだポー川に沿って効率的に活動している時期に誕生しました。

中世初期の物語は12世紀の後の時点で終わりを迎えます。ポー川の主な水路が北へ移動したため、コマッキオは、その商業機能を停止し、本質的に潟の中の養魚場経済の中心地になりました。

1階



地上階

